

令和5年度教員業績評価結果について

1. 評価制度の目的

教員の諸活動について、現状の把握及び適正な評価を行い、国立大学法人としての社会的説明責任を果たすとともに、その評価結果を処遇に反映させることにより、教員の教育・研究活動の活性化や大学運営の改善に資することを目的に実施するものである。

2. 評価制度の概要

①先端科学技術研究科

「教育」、「研究」、「社会連携」、「管理運営」、「その他」という5つの評価対象区分から20以上の評価項目を、各種業績データ及び自己PR書の内容から総合的に評価し、下表に掲げる5段階の評価ランクを決定する。

評価ランク	業績評価基準
S	教育・研究サイクルが極めて円滑に回っている。
A+	教育・研究サイクルが円滑に回っている。
A	教育・研究サイクルが概ね回っている。【標準】
B	教育・研究サイクルについて改善の余地がある。
C	教育・研究サイクルについて立て直しが必要である。

②総合情報基盤センター

「全学情報基盤の整備・運用・管理」、「情報セキュリティ関連業務」、「次世代全学情報基盤の計画・検討・調査」という3つの評価対象区分における業績内容並びに兼務先である先端科学技術研究科における教育、研究、社会連携活動の各種業績データの内容から総合的に評価し、下表に掲げる5段階の評価ランクを決定する。

評価ランク	業績評価基準
S	業績が職務(職責)に求められる水準をはるかに上回った。
A+	業績が職務(職責)に求められる水準を上回った。
A	業績が職務(職責)に求められる水準に達した。【標準】
B	業績が職務(職責)に求められる水準をやや下回った。
C	業績が職務(職責)に求められる水準を下回った。

③生命科学研究基盤センター

「センター内の機器及び設備の運営管理」、「共用設備及び施設の計画・検討・運営」及び「先端生命科学の手法を導入した新たな教育研究、社会連携」という3つの評価対象区分における業績内容並びに兼務先である先端科学技術研究科における教育、研究、社会連携活動の各

種業績データの内容から総合的に評価し、下表に掲げる5段階の評価ランクを決定する。

評価ランク	業績評価基準
S	業績が職務(職責)に求められる水準をはるかに上回った。
A+	業績が職務(職責)に求められる水準を上回った。
A	業績が職務(職責)に求められる水準に達した。【標準】
B	業績が職務(職責)に求められる水準をやや下回った。
C	業績が職務(職責)に求められる水準を下回った。

④マテリアル研究プラットフォームセンター

「デジタル化研究推進活動の運営管理」、「共用設備の整備、導入計画・検討・運営」及び「設備共用の拡大と社会連携推進」という3つの評価対象区分における業績内容並びに兼務先である先端科学技術研究科における教育、研究、社会連携活動の各種業績データの内容から総合的に評価し、下表に掲げる5段階の評価ランクを決定する。

評価ランク	業績評価基準
S	業績が職務(職責)に求められる水準をはるかに上回った。
A+	業績が職務(職責)に求められる水準を上回った。
A	業績が職務(職責)に求められる水準に達した。【標準】
B	業績が職務(職責)に求められる水準をやや下回った。
C	業績が職務(職責)に求められる水準を下回った。

⑤データ駆動型サイエンス創造センター

「全学データサイエンス融合教育研究の推進、センターの運営管理」、「全学データサイエンスプログラムの計画・検討・運営」、「データ駆動型サイエンスの手法を導入した新たな教育研究、社会連携」という3つの評価対象区分における業績内容並びに兼務先である先端科学技術研究科における教育、研究、社会連携活動の各種業績データの内容から総合的に評価し、下表に掲げる5段階の評価ランクを決定する。

評価ランク	業績評価基準
S	教育・研究サイクルが極めて円滑に回っている。
A+	教育・研究サイクルが円滑に回っている。
A	教育・研究サイクルが概ね回っている。【標準】
B	教育・研究サイクルについて改善の余地がある。
C	教育・研究サイクルについて立て直しが必要である。

⑥デジタルグリーンイノベーションセンター

「全学デジタルグリーンイノベーション融合教育研究の推進、センターの運営管理」、「全学デジタルグリーンイノベーション教育プログラムの計画・検討・運営」、「デジタルグリーンイノベーショ

ンの手法を導入した新たな教育研究、社会連携」いう3つの評価対象区分における業績内容並びに兼務先である先端科学技術研究科における教育、研究、社会連携活動の各種業績データの内容から総合的に評価し、下表に掲げる5段階の評価ランクを決定する。

評価ランク	業績評価基準
S	教育・研究サイクルが極めて円滑に回っている。
A+	教育・研究サイクルが円滑に回っている。
A	教育・研究サイクルが概ね回っている。【標準】
B	教育・研究サイクルについて改善の余地がある。
C	教育・研究サイクルについて立て直しが必要である。

3. 令和5年度教員評価の概要

①評価対象期間

令和4年10月から令和5年9月

②評価対象

評価対象期間のうち、6か月を超えて勤務実績を有する常勤職員 178名

4. 実施スケジュール

時期	内容
令和5年10月～11月 下旬	1. 評価者による評価の実施 2. 評価者から調整者へ評価結果を提出
令和5年12月中旬	1. 調整者による評価結果の調整及び学長による評価結果の決定 2. 調整者が処遇への反映を決定し、評価者へ評価結果を通知
令和5年12月下旬	評価者より被評価者へ評価結果を開示

5. 評価結果の概要

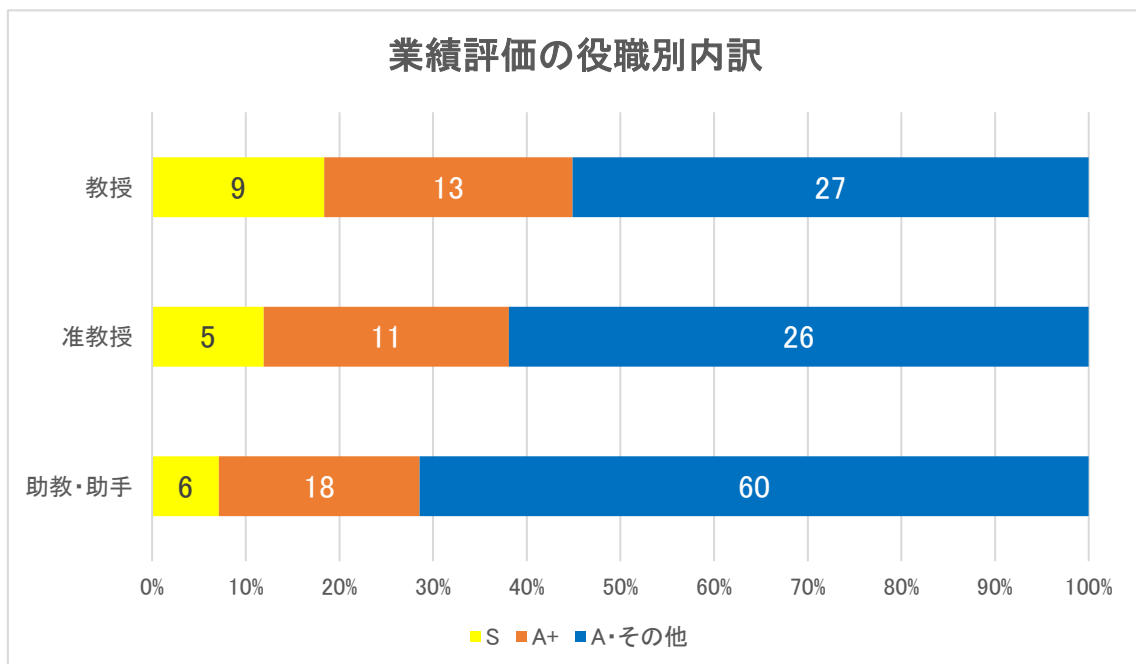
別紙のとおり

■業績評価の役職別内訳

評価ランク 役職	S		A+		A・その他		総計 (役職別)
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
教授	9	18%	13	27%	27	55%	49
准教授	5	12%	11	26%	26	62%	42
助教・助手	6	7%	18	21%	60	72%	84
総計(評価ランク別)	20	11%	42	24%	113	65%	175

※割合は職位ごとの評価ランク別割合

※黄色セルは総計(評価ランク別)を超える割合のもの



■各専門分野における評価ランク内訳

評価ランク	S		A+		A・その他		総計 (役職別) 人数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
情報系	9	13%	16	23%	45	64%	70
バイオサイエンス系	7	11%	15	24%	40	65%	62
マテリアル系	4	9%	11	26%	28	65%	43
総計(評価ランク別)	20	11%	42	24%	113	65%	175

※割合は分野ごとの評価ランク別割合

※黄色セルは総計(評価ランク別)を超える割合のもの

